8．かかわり・かかわり方

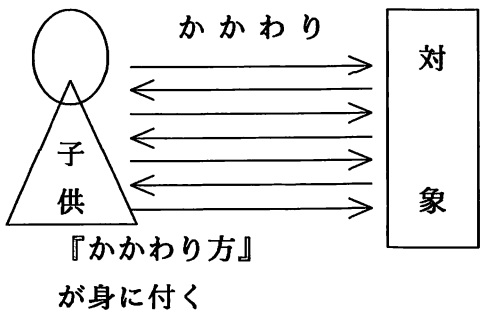
生活科の教科目標には，「自分と身近な人々，社会及び自然とのかかわりに関心をもち…」とあります。生活科の学習では，ただ単に子供が，多くの知識を獲得するのではなく，身近な人々や社会，自然とのかかわりの中で体験的に学んでいくことを重視します。

したがって，生活科の活動を考えていく時には，対象との『かかわり』ということを大切にし，そして，繰り返しかかわることによって，『かかわり方』を身に付けていくことを大切にしています。

かかわり・かかわり方とは

『かかわり』とは，関係をもつことである。生活科の学習では，子供が対象と出会い，見たり，聞いたり，触れたりするといった具体的な活動をして関係をもつことである。

また，『かかわり方』とは，繰り返し対象とかかわることによって身についた対象とのつきあい方，ふるまい方のことである。



実践から

ザリガニを飼育する活動で考えてみます。ザリガニに恐怖心を抱いている子は触ることができず，ただ見ている。そのうちに，友だちがザリガニと遊んでいるところを見て少し関心をもち，えんぴつで触ってみようとします。自分のやった餌を食べる様子を見てさらに関心がわき，指でちょっと触ってみたり，餌を与えてみたりします。このようなこと（かかわり）を繰り返していく中で，だんだんザリガニに親しみをもつようになり，どのようにかかわるとよいのかに気付き，分かるようになってきます。このような状態がかかわり方が身についていく姿です。